



- ☆第66次 教育研究愛知県集会に参加して
- ☆これですっきり中学校版出版
- ☆授業のひとコマ

第66次教育研究愛知県集会に参加して

10月22日にウインクあいちにて、第66次教育研究愛知県集会が行われました。岡崎市からは、男川小学校 稲垣有希先生、連尺小学校 中村早映先生、矢作中学校 濱田明弘先生、福岡中学校 岡田淳也先生が参加しました。その中から、稲垣先生が県の代表として全国大会に参加することが決まりました。

参加した4名の先生方の中から2人の先生に、参加した様子を教えていただきました。

教育研究愛知県集会「数学教育（算数）」分科会に参加しました。子供が主体となって学習に取り組むことのできる教材の開発や学習展開の方法など、様々な視点から討論が行われました。

レポートの内容には、毎日の学習で確かな学力を育む手だての工夫や、伝え合う力の向上を目指した工夫などがありました。次の3点について、特に話題となりました。

- ①活動や内容を精選して、授業のねらいを明確にすること。
- ②視覚的な手がかりを活用して、学習内容を理解しやすくすること。
- ③ペア活動やグループ活動など、全員が考えを共有できる活動の場を設定し、本時の手がかりとなる既習事項を確かめたり、指導内容の定着を図ったりすること。

また、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりについても討論されました。

助言者の先生からは、教師が全国学力調査の模範解答をしっかりと読み、キーワードとなる言葉を頭に入れておき、日頃の子供たちの話し合いの場で、算数の言葉を使いながら、大切な言葉を残していくことが大切だと教えていただいた。また、子供たちに自信をつけさせるためには、自分の正しさを立証する場で、教師が適切な手だてを打つことが大切であると教えていただきました。貴重な場を与えていただき、ありがとうございました。（連尺小学校 中村 早映）

第4分科会の「数学教育（数学）」部会に参加しました。「確かな学力の定着・学習形態の工夫」「思考力・判断力・表現力の育成」「自ら学ぶ力・意欲の育成」という3本の柱でレポート発表・討論が行われました。

今回のレポートでは、生徒が能動的に授業に参加できるための教材・教具の工夫、授業形態の工夫に関する発表が多くありました。討論の場面において、生徒同士が説明する場面において、グループ編成や発表の仕方など、様々な意見交換がありました。

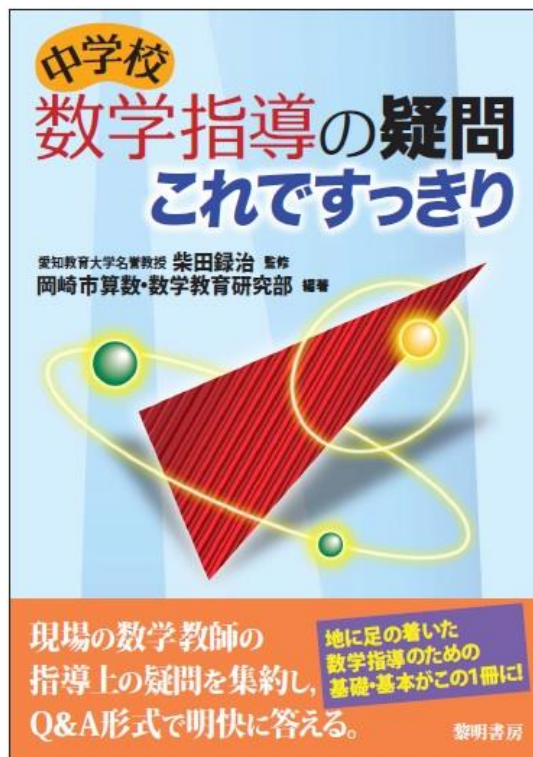
私自身、2年生の「図形の調べ方」の授業での発表を行いました。その中で、直感的に扱うことができる問題を多く取り入れ、生徒自身が説明したくなるような場面を設定する授業の提案を行いました。事前に読書会の場でご助言をいただいたことを踏まえ、提案させていただいたこともあり、スムーズに発表することができました。また、質疑や討論の場面においても、市の教研大会や読書会での経験が生きました。助言者の先生からは、教具の工夫について高く評価していただきました。

この会に参加することを通して、岡崎の教育の質の高さを改めて実感することができました。このような貴重な場を与えていただき、ありがとうございました。（矢作中学校 濱田 明弘）

中学校 数学指導の疑問 これですっきり 出版

日々の授業の計画の中で、ふと疑問に思うことはありませんか。生徒から質問を受け、どのように指導すればよいのか迷ったことはありませんか。本書はこのような数学教師の疑問に対して、Q & A形式でわかりやすく答えています。そして、すぐに実践で活用できるように、具体例も挙げられています。

数学教師のさらなる力量向上と、中学校数学教育の充実・発展を目指し、岡崎市算数・数学部の多くの先生たちが、執筆に関わりました。ぜひ、ご一読いただき、生徒の数学の学習力向上に参考にしてください。



授業のひとコマ

平行線の性質(2年生「図形の調べ方」)

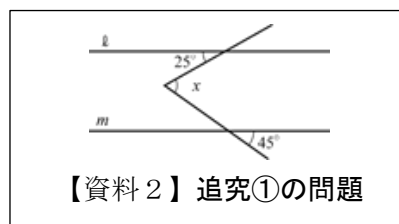
課題解決に向けて、夢中になって取り組む生徒の育成を目指し、生徒主体となる授業作りを心掛けています。身に付けた知識を応用させ、自ら問題解決を進められるように、1時間の学習の中に【資料1】のようにスモールステップを取り入れた問題解決学習を進めています。



導入 → 学習課題 → 追究① → 追究② → 追究③ → 確認問題 → まとめ → 振り返り
(学び合いで解決) (自力で解決)

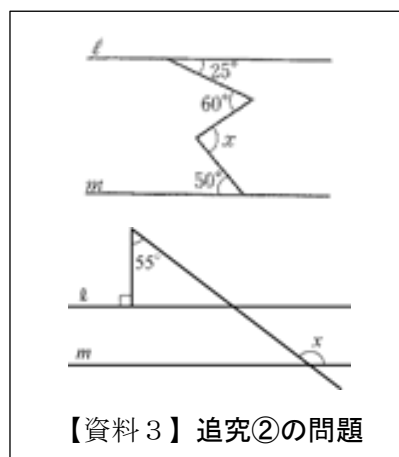
【資料1】学習の流れ

平行線の性質の学習では、まず追究①として【資料2】の問題を提示しました。問題解決の前に、このままの図では解けないことをヒントとして与えました。追究を通して、生徒はこれまで学習してきた平行線の性質と、頂点と頂点を結ぶ、線分を延長する、平行線を加えるといった補助線の書き方を整理することができました。



【資料2】追究①の問題

そこで、追究②として【資料3】の問題を提示しました。生徒は追究①でまとめた方法を振り返り、どの方法でも問題解決ができそうだと見通しをもって取り組みました。初めに線分を延長する補助線を書いたAは、問題によっては平行線を加えるほうが求めやすいと気付くことができました。このようなステップから、生徒は平行線の性質を活用することができるようになり、追究③では全員が自力で問題を解決することができました。



【資料3】追究②の問題

スモールステップを取り入れたことで、生徒は身に付けた知識を使って問題を自ら解決する楽しさを実感することができました。

(文責 東海中学校 神谷 孝志)